

小城市立歴史資料館 中林梧竹記念館だより



～お知らせ～

小城維新探検隊 ～映像で見る幕末から明治期に活躍した偉人や出来事～

明治維新から今年で150年を迎えます。

県では、“幕末維新博”をはじめ今年度数々の事業を計画しています。

市でもいろいろな企画を行います。その一つとして幕末・維新时期から明治期にかけ活躍した小城出身の偉人や歴史的な出来事を紹介する映像(DVD)『小城維新探検隊』を制作しました。



収録にあたっては、市内の中学生が出演し、小城の偉人やそのゆかりの地、出来事などを紹介するという構成になっています。

この企画は、平成29・30年度の2年間にわたり行いますが、29年度は次の5本を制作しました。学校の副教材としても利用する予定で、市民の皆さんにも映像を通して小城の歴史を学んでいただきたいと考えています。

①小城公園編／市民憩いの場・観光地である公園はどのようにして誕生したか？

②富岡敬明編／熊本県知事、世界遺産の三角西港の築港を行った。

③柴田花守編／日本の端唄の代表作「春雨」の作者、神道実行教会の初代管長。

④松田正久編／牛津出身で、大蔵大臣・文部大臣・司法大臣などを歴任。

⑤高田保馬編／三日月出身の社会学者・経済学者。県内11校の校歌の作詞者。

『小城維新探検隊』は、市ホームページで視聴できます。

重要文化財(書跡)の指定を行いました

三日月町深川の勝妙寺が所蔵している「中山法華経寺歴代貫首曼荼羅本尊17幅」を3月29日に小城市重要文化財(書跡)に指定しました。

曼荼羅本尊とは南無妙法蓮華経の題目を中心として、周囲に神仏の名を書き連ねて御本尊とするもので、開祖日蓮が創始しました。

小城における日蓮流の法華経信仰は鎌倉時代末期に千葉氏の氏寺であった中山法華経寺(千葉県市川市)の2代貫首日高の命を受けた日巖(勝妙寺開祖)により広められたとされます。今回の指定資料は九州での布教のため、正和2(1313)年に日高から日巖へ授けられたものを含む歴代貫首自筆の曼荼羅本尊17幅で、千葉氏の精神的な拠りどころであった中山法華経寺と勝妙寺、あるいは小城が深いつながりを持っていたことがうかがえ、高い文化財的な価値を有しています。



▲日高から日巖へ授けられた曼荼羅本尊

文化財説明板の設置を行いました

教育委員会では「～小城どこでんミュージアム～屋根のない博物館構想」に基づいて、市内各所に所在する文化財などについて順次説明板の設置を行っています。

平成29年度は三日月町深川の勝妙寺、西九州大学校舎内(校舎建設前に実施した発掘調査の説明)、長崎街道(牛津新町・寺町)の計4カ所に設置しました。近くにお寄りの際はぜひご覧ください。



牛津寺町の高札型説明板▲

※開館時間 9時～17時 ※休館日 毎週月曜日・祝日、5月3日(木・祝)・4日(金・祝)・8日(火)

【問合せ・申込み】歴史資料館 文化課(桜城館2階) 担当 小柳・永田 ☎71・1132

小城市ホームページから 梧竹・歴史資料館・文化財 検索

Facebook 小城市立歴史資料館・中林梧竹記念館 検索

